

3

大学ポック



清見潟ニュース

清見潟大学塾事務局

〒424-0817 静岡市清水区銀座 9-11

TEL: 054-367-3588 / FAX: 054-367-3599

URL: <https://www.kiyomigata.sakura.ne.jp>

Mail: kiyomigata@cy.tnc.ne.jp



修了作品展が、二月二十一日(金)から二十三日(日)まで清水マリナートギヤラリーにて。ステージ発表会が、二月二十三日(日)十二時三十分から同じく清水マリナート小ホールで開催されました。

修了作品展には二十講座が、ステージ発表会には十七の講座が参加し、多くの来場客でにぎわいました。

修了作品展
ステージ発表会 開催



令和七年度(四十一回度)の修了作品展は令和八年二月十三日(金)から二月十五日(日)まで。ステージ発表会は二月十五日(日)、共に清水マリナートで開催と決まりました。



誰でも知ってる歌・唄・うた
鈴木芳子先生
長い間ありがとうございました。



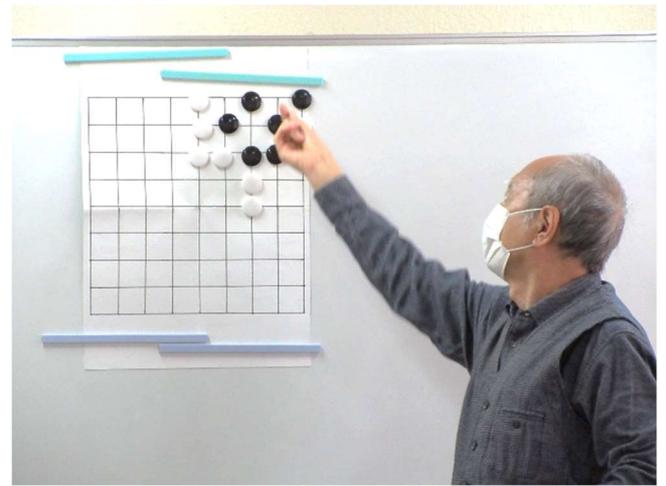
黒と白の陣取り合戦 囲碁

黒と白が盤上で陣地取りという、すぐに浮かぶのはオセロゲームでした。でも、他にも歴史のあるゲームがありました。新聞に掲載されていますね。そう、「囲碁」です。

今回は江尻交流館で行われている囲碁講座をのぞいてきました。

Q 黒と白の勝負という、すぐに思いつくのはオセロなんですけど・・・

A オセロですか。オセロの原型は、終戦の年に水戸市の長谷川五郎さんが考案したものです。



囲碁は、四千年位前に中国で始まったと言われています。碁盤は宇宙、碁石は星のかわりで、天文や占いに使われたともいわれています。中国では王様になるたしなみとして、子どもに習わせたようです。



日本には奈良時代に遣唐使が唐から持ち帰ったという話があります。紫式部の「源氏物語」や清少納言の「枕草子」の中にも出てきます。



織田信長、豊臣秀吉、徳川家康に守られてきた囲碁も、第二次世界大戦で対局ができなくなりました。でも戦後広く大会が行われるようになり、今では世界中で約四千万人が楽しんでいると推計されています。ということは、百七十五人に一人が囲碁ファンという計算になります。今、日本には約五百人のプロがいますが、対局最年長記録を持つ杉内寿子八段(九十七歳)は静岡県の出身なんですよ。



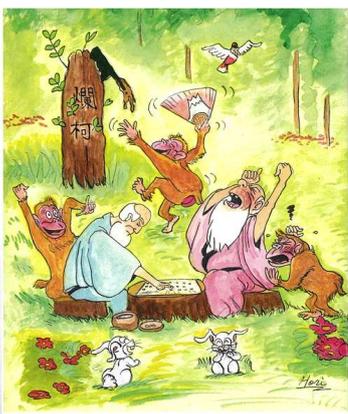
Q 囲碁は陣地取りでいいですよ。A そうですよ。難しいルールはありません。一、黒白交互に打つ。二、地の多い方の勝ち。三、相手の石の道をふさげば取れる。四、石の打てないところがある。五、コウ(同じ形で石の取りあいがありなく続く)はすぐには取り返せない。それだけです。自分を守り敵を攻める。そして陣地を増やしていく。単純だけど奥の深いゲームですよ。あなたも一緒に楽しみませんか。

・初段を目指す囲碁教室

江尻生涯学習交流館

第二・四(水) 九時半

講師 後藤 勝



秋春碁 後藤勝

新規開講六講座

令和七年四月から、次の六講座が開講することになりました。

- ・私にも書ける美文字Ⅱ
袖師第一・三(金) 十九時
 - 講師 西島春華
 - ・なぎなたで健美
袖師第一・三(月) 十三時半
 - 講師 薩川千聡
 - ・ピアノはじめの一步
船越第一・三(金) 十時
 - 講師 岩倉千景
 - ・楽しいウクレレ教室
有度第二・四(火) 十時
 - 講師 藪崎晴美
 - ・楽しいパン作り
江尻第三(土) 十三時
 - 講師 豊川陽子
 - ・英語でおもてなし
入江第二・四(日)
十三時四十五分
 - 講師 近藤一美
- よろしくお願ひします。

展示しました



袖師交流館まつり参加
簡単ツールペイント
講師 植田靖子

頭の体操

真ん中に入る漢字は何でしょう

	温	凡	消	略	
大	<input type="text"/>	解	暗	<input type="text"/>	痴
	尚	行	擊	殿	黙
			争	還	奪

皆さんわかりましたか。答えはこのページにありますよ。

清見潟川柳

みな帰り 鏡開きは また二人
塾稽古 送った日々を 懐かしむ
有度の健さん

春風が 花粉を連れて やってきた
鼻炎の友さん

一円も 無駄にできない また値上げ
ゆきさん

なんでもいい その一言が ケガの元
濃い口が たまには食べたい 高血圧
かんじさん

孫とじい 共に「しゅうかつ」 始め時
徳さん

皆様からの投稿をお待ちしてま
す。どしどしお寄せください。
頭の体操の答えは右から順に、「奪」
「沈」「愚」「和」でした。
簡単すぎましたか。(笑)

まちの思い出

記念塔追想

桜が丘町 小幡勝郎さん

桜が丘の交差点の真ん中に、記念塔が建っていたのは、昭和三十五年ころまでかな。

この塔ができたころは、桜が丘という町名もなく、上清水とか下清水って呼んじやあいただよ。

記念塔は、上、下のちょうど境に建てられていたな。

高さが十メートルの余もあってな、白い石だもんで、まぶしいくらいきれいだったよ。



昭和7年に建てられた記念塔

塔の下にやあ、大人が楽に出入りできるくらいのアーチがあつてき、中には水飲み場もあつたもんで、子供らがたぐりついちゃあ水を飲んでいたつて。

この塔から船越までの道に桜の木が植わつていてな、春の花見のころになると、日本平や船越堤へ出かける衆が、記念塔のどを潤して一服しちやあいたつてな。

わしらも、この道をよく歩いたもんだが、記念塔は街のシンボルだったし、いい道しるべだったと思うな。

それが、昭和三十年ころから車が増え、事故も多くなつてきたもんで、桜の木も記念塔も邪魔になり、結局、取り壊されてしまったのさ。

ずうっと親しんできたものが無くなつちやつたわけだから、そりやあさみしいつてよ。

隣保館

辻二丁目 北條キリさん

昭和の初めのころは、不景気で食料もなかつたし、病人も多くて貧しい時代でした。

そんな世相を見かねたんでしょうねえ、山田政吉さんという人が、社会



貧困救済に出掛ける隣保館職員(昭8.12)

事業のためにつて、私財を投げ出し、港町に「隣保館」を造つたんです。

託児所を開いたり、巡回医療をやつたり、山田さんつていう人は、本当に偉い人だったですよ。

わたしも、昭和七年ごろから六年間ほど、ここでお産や病人のお世話をしつてましてね。

夏になると、林間保育があつたもんだから、鉄舟寺や船越の玉泉寺などへお手伝いによく行つたものでした。

暮れには、この先生たちと、お米やお餅を持って貧しいお家を回つたりもしてね。

病人のお世話も大変で、夜中に呼び出され、お医者さんと一緒に出掛けたこともしょつちゆうでした。

寝たきりのお年寄りの身体を拭いてあげると、合掌されるんですよ。いつも貧しい人を見てきたから、今でもわたしは奉仕の心を持つています。

今では、お年寄りの暮らしも豊かになりましたけど、やっぱり昔の人がそれだけの苦労をしたからでしょうね。

旧清水市総務部編集

「まちの思い出」

十二・十三ページより引用

まちの思い出

